



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2021年
5月24日
発行

第89回

「インフレを考える」

～良いインフレ悪いインフレ～

初めに

前回に続いてインフレを取り上げます。自分は以前に比べてインフレのリスクが高まっていると思います。今回はそう考える理由や、過去のインフレの事例などについてお話しします。

インフレを見込む理由

インフレを見込む理由として最も重要なのは、今後世界経済が回復局面入りすると見ていることです。現在は米中のように新型コロナを抑え込み経済活動を正常化させている国がある一方、日本やインドなど感染拡大が止まらず経済が弱い国もあり世界全体では経済は回復基調に乗ったとは言えません。ただし今後は現在まだワクチン接種が進んでいない国でも接種が進むと考えておりそれに伴って世界経済は回復局面入りすると予想しています。その場合景気回復に伴いインフレ率も上昇すると思われます。このインフレは景気回復を前提とした「良いインフレ」ということになります。

サプライチェーンの毀損

サプライチェーンの毀損もインフレを予想する理由の一つです。今年に入って米国の寒波、スエズ運河のトラブルなどサプライチェーンの問題が経済や金融市場に影響する事例が目立ちます。なかにはウイグル問題でユニクロのシャツが米国で輸入差し止め措置を受けた事例もあります。（日本経済新聞5/19付）これもサプライチェーンの毀損と言えるでしょう。この場合サプライチェーンの毀損は企業業績にマイナスと考えられるので「悪いインフレ」となります。

石油危機は過去最大のサプライチェーン問題

インフレが最も金融市場に大きな影響を与えたのは1973年に勃発した第一次石油危機です。中東産油国が原油の輸出を停止したため世界経済は大混乱に陥りインフレ率は急上昇、株価は急落しました。この石油危機も石油のサプライチェーンの毀損と言えるでしょう。

地政学リスクもインフレ上昇要因

その後イラン革命をきっかけに1980年第二次石油危機が勃発、原油価格が上昇して世界経済にも悪影響が及びました。現在も米中関係など地政学リスクは高まりつつあると思います。これもインフレを見込む理由です。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。